

テーマ

## 今を映しだす歴史という鏡

適用分野

大英帝国の興亡史から、現代の「帝国」およびグローバルズムを読み解く。



研究名称

大英帝国という時空間の出来事を現代的課題と重なる「経験」として見直し、語り直す

氏名所属

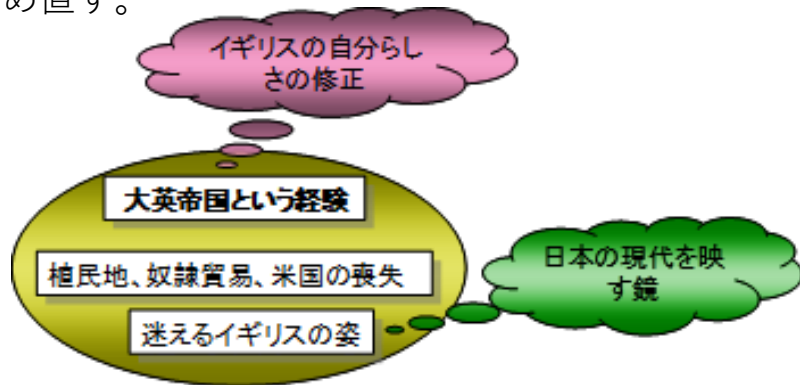
井野瀬久美恵 教授  
文学部 英語英米文学科

内容

### ●特徴

大陸に寄り添う島国でありながら、全世界に広大な植民地を従え、栄華を誇った大英帝国。かつての領土を手放し、非白人系移民を胎内に抱えることとなった今、「イギリス人」とは何か、「イギリスらしさ」とは何かを改めて問われるとともに、それらを保証していた存在として、「帝国だった過去」に人びとの注目が集まっている。

こうした現状をにらみつつ、大英帝国という時空間との多様な対話を通じて、同じく島国である日本の過去に対する認識を含め、グローバルな今の課題を見つめ直す。



### ●研究内容

イギリス人は、帝国の中心部にいながらも、植民地という周縁の経験を取り込むことで、絶えず「自分らしさ」の修正、再編に迫られてきた。とりわけ、「アメリカ独立」と呼ばれる出来事、すなわちイギリスにとって植民地アメリカを手放した経験は、その後の帝国建設にとって大きな教訓となった。その教訓をふまえて、イギリスは、7つの海、5つの大陸に広がる「帝国」を築くことに成功したといえる。

国家の一体感が揺らぎ進むべき道を見失ったとき、人びとは、かつて栄えた「過去」に心の拠り所を求めがちである。だからこそ、「帝国だった過去」や奴隷貿易という経験と正面から向き合い、負の遺産のイメージを押し広げ、そこに未来への向き合い方を探ろうとする現代イギリスの動きは興味深い。

歴史とは、過ぎ去った時代の記録ではない。語り手や書き手によって、絶えず上書きされる、「現在の物語」である。帝国だったイギリスの経験は、グローバルな現代的諸課題とどうつながっているのか。その経験は、歴史認識問題で揺れる日本に何を語りかけているだろうか。

キーワード

イギリス近現代史、大英帝国史、ヴィクトリア朝、植民地、帝国、経験、アフリカ、大日本帝国、日露戦争、女性

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究